

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年11月11日

上場取引所 福

上場会社名 株式会社 スーパー大栄
 コード番号 9819 URL <http://www.superdaiei.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 中山 勝彦
 (氏名) 阪本 博美

TEL 093-602-2770

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	12,794	△6.3	△51	—	△67	—	△115	—
23年3月期第2四半期	13,651	△4.6	△66	—	△86	—	△63	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	△15.98	—
23年3月期第2四半期	△9.16	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	10,343	3,210	31.0
23年3月期	10,530	3,332	31.6

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 3,210百万円 23年3月期 3,332百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,000	△4.7	10	—	△20	—	△60	—	△8.33

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期2Q	7,200,000 株	23年3月期	7,200,000 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

24年3月期2Q	3,466 株	23年3月期	2,474 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	7,197,173 株	23年3月期2Q	6,933,685 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	10
業績の推移	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響や電力会社の電力不足により急激な景気の落ち込みが見られたものの、サプライチェーンの復旧に伴い生産活動は次第に持ち直してきました。しかしながら、混迷する政治情勢や欧州の金融財政危機及び米国の財政悪化などで円相場は急騰、株式市場も低迷状態であり依然として先行き不透明な状況が続いております。

小売業界におきましても、業態の垣根を越えた企業間の価格競争は益々激化する中で、厳しい雇用情勢や所得環境は一向に改善の兆しは見え、当社を取り巻く市場環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社では平成23年3月、事業改革の一環として、中核事業部に成長した鮮ど市場事業部を、今まで以上に営業力の強化と当社独自の店舗戦略で売上拡張を図るためコンサルティング契約を解除いたしました。そして、鮮ど市場店舗の屋号も「フレッシュ8」と改称し、6月1日より全店一斉に新装オープンいたしました。

しかしながら、生鮮食料品の「新鮮で安い!」を販売戦略にした「フレッシュ8」も、夏場の最大の需要時期に牛肉の放射能汚染問題が発生し国産牛肉の売れ行きが激減したことや、商圈内の競合スーパー及び食品を扱うドラッグストアが消費者の低価格ニーズに合わせ、極端な価格戦略で顧客誘致を図ってきたため「フレッシュ8」の各店舗は大きな影響を受けました。

また、前年より収益力の改善と経営の効率化を図るため、不採算店舗を数店閉鎖いたしました。店舗のリストラも一定の目途がたち、今後は積極的に新規出店していく方針ですが、過年度の店舗閉鎖と既存店の不振が大きく響き売上高は大きく減少いたしました。また、利益面につきましても、不採算店舗の閉鎖や賃貸収入の増加などで改善した部門もありましたが、既存店の売上不振や、「フレッシュ8」への改称に伴う改装費用の発生、固定資産除却損及び法人税等調整額の計上などにより営業損失、経常損失、四半期純損失となりました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は12,794百万円(前年同四半期比6.3%減)、営業損益は51百万円の営業損失(前年同四半期は66百万円の営業損失)、経常損益は67百万円の経常損失(前年同四半期は86百万円の経常損失)となり、四半期純損益は115百万円の四半期純損失(前年同四半期は63百万円の四半期純損失)となりました。

なお、事業部門別売上高は次のとおりであります。

事業部門	前第2四半期累計期間		当第2四半期累計期間		前年同四半期 増減率(%)
	(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)		(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)		
	売上高(百万円)	構成比(%)	売上高(百万円)	構成比(%)	
小売業					
生鮮食品	7,513	55.0	7,086	55.4	△5.7
一般食品	4,818	35.3	4,388	34.3	△8.9
日用雑貨	412	3.0	416	3.2	1.0
その他	734	5.4	739	5.8	0.8
計	13,478	98.7	12,631	98.7	△6.3
その他の事業	173	1.3	162	1.3	△6.0
合計	13,651	100.0	12,794	100.0	△6.3

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当第2四半期末の総資産は、前期末比186百万円減少し、10,343百万円となりました。

流動資産は、前期末比131百万円減少し、1,632百万円となりました。これは、現金及び預金が131百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前期末比55百万円減少し、8,711百万円となりました。これは、「鮮ど市場」から「フレッシュ8」への屋号改称に伴う看板付替工事や既存店のPOSレジ入替など総額162百万円の設備投資を行ったものの、固定資産の減価償却164百万円や除却29百万円、投資その他の資産の減少23百万円により減少したものであります。

流動負債は、前期末比118百万円減少し、4,710百万円となりました。これは、買掛金が89百万円減少したことや、1年内返済予定の長期借入金が35百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前期末比53百万円増加し、2,422百万円となりました。これは、長期借入金が37百万円減少したものの、その他の固定負債が80百万円増加したことなどによります。

純資産は、前期末比121百万円減少し、3,210百万円となりました。これは、四半期純損失115百万円を計上したことなどによります。

(キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第2四半期累計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前期末比131百万円減少し791百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主たる増減要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費等のプラス要因はありましたが、仕入債務の減少や税引前四半期純損失等のマイナス要因により、38百万円のマイナス（前年同四半期は52百万円のプラス）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、建設協力金や敷金及び保証金の回収等のプラス要因はありましたが、「鮮ど市場」から「フレッシュ8」への屋号改称に伴う看板付替工事等の設備投資により、11百万円のマイナス（前年同四半期は60百万円のマイナス）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の約定返済が調達を上回ったことなどにより、81百万円のマイナス（前年同四半期は28百万円のプラス）となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、(1) 経営成績に関する定性的情報に記載のとおり当第2四半期累計期間の売上高が前年同四半期比6.3%の減収となり、利益面も損失を計上することとなったことに加え、今後予定している新規出店の初期投資費用及び業態変更に伴う改装費用等を見込んでおりますので売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益について下方修正するものです。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	923,195	791,906
売掛金	6,244	6,762
商品	689,251	693,302
その他	145,097	140,204
貸倒引当金	△45	△45
流動資産合計	1,763,744	1,632,132
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,461,483	3,397,697
土地	3,282,026	3,282,026
その他(純額)	674,262	662,929
有形固定資産合計	7,417,773	7,342,653
無形固定資産	95,962	139,420
投資その他の資産	1,252,753	1,229,314
固定資産合計	8,766,488	8,711,388
資産合計	10,530,232	10,343,520
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,509,619	1,419,961
短期借入金	1,905,000	1,920,000
1年内返済予定の長期借入金	635,000	600,000
未払法人税等	28,387	19,768
賞与引当金	73,000	71,000
ポイント引当金	13,709	12,458
店舗閉鎖損失引当金	33,039	1,358
その他	630,562	665,692
流動負債合計	4,828,318	4,710,238
固定負債		
長期借入金	1,196,000	1,159,000
退職給付引当金	709,865	717,366
役員退職慰労引当金	110,327	112,951
その他	353,563	433,662
固定負債合計	2,369,756	2,422,980
負債合計	7,198,075	7,133,218

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,667,108	1,667,108
資本剰余金	1,697,019	1,697,019
利益剰余金	△27,244	△142,291
自己株式	△705	△910
株主資本合計	3,336,177	3,220,925
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△4,020	△10,623
評価・換算差額等合計	△4,020	△10,623
純資産合計	3,332,157	3,210,302
負債純資産合計	10,530,232	10,343,520

(2) 四半期損益計算書
第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	13,651,690	12,794,397
売上原価	10,785,639	10,083,093
売上総利益	2,866,051	2,711,303
営業収入	185,503	172,134
営業総利益	3,051,555	2,883,438
販売費及び一般管理費	3,118,102	2,934,846
営業損失(△)	△66,547	△51,408
営業外収益		
受取利息	2,538	2,167
受取配当金	3,189	3,679
その他	5,951	6,990
営業外収益合計	11,679	12,836
営業外費用		
支払利息	31,325	27,854
その他	734	733
営業外費用合計	32,060	28,587
経常損失(△)	△86,927	△67,158
特別利益		
ポイント引当金戻入額	503	—
受取保険金	1,685	210
特別利益合計	2,188	210
特別損失		
減損損失	4,991	—
固定資産除却損	9,839	19,628
投資有価証券評価損	1,541	366
店舗閉鎖損失引当金繰入額	6,206	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,660	—
その他	190	1,991
特別損失合計	25,430	21,986
税引前四半期純損失(△)	△110,168	△88,935
法人税、住民税及び事業税	10,014	9,768
法人税等調整額	△56,619	16,343
法人税等合計	△46,604	26,111
四半期純損失(△)	△63,564	△115,047

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△110,168	△88,935
減価償却費	165,181	164,207
減損損失	4,991	—
投資有価証券評価損益(△は益)	1,541	366
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	5,156	△31,681
退職給付引当金の増減額(△は減少)	14,946	7,500
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△36,954	2,624
賞与引当金の増減額(△は減少)	△5,000	△2,000
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△503	△1,251
受取利息及び受取配当金	△5,728	△5,846
支払利息	31,325	27,854
固定資産除却損	8,059	29,646
売上債権の増減額(△は増加)	△899	△518
たな卸資産の増減額(△は増加)	38,901	△3,803
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△16,787	△12,155
仕入債務の増減額(△は減少)	△45,137	△89,658
その他の流動負債の増減額(△は減少)	47,618	18,000
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△3,770	△11,147
その他	6,220	1,604
小計	98,993	4,806
利息及び配当金の受取額	3,289	3,790
利息の支払額	△30,370	△27,408
法人税等の支払額	△19,858	△19,960
営業活動によるキャッシュ・フロー	52,054	△38,771
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△56,874	△79,907
投資有価証券の取得による支出	—	△2,200
貸付けによる支出	△1,220	△950
貸付金の回収による収入	826	615
建設協力金の支払による支出	△2,886	△3,170
建設協力金の回収による収入	20,688	48,504
敷金及び保証金の差入による支出	△10,001	△11,350
敷金及び保証金の回収による収入	2,170	28,698
その他	△13,580	8,310
投資活動によるキャッシュ・フロー	△60,879	△11,449

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	15,000
長期借入れによる収入	500,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△459,000	△372,000
リース債務の返済による支出	△9,945	△23,862
自己株式の取得による支出	△2,091	△205
財務活動によるキャッシュ・フロー	28,963	△81,068
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	20,137	△131,289
現金及び現金同等物の期首残高	859,186	923,195
現金及び現金同等物の四半期末残高	879,324	791,906

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

4. 補足情報

業績の推移

(百万円未満切捨て、%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第2四半期	14,202	△2.9	40	—	10	—	50	—
21年3月期第2四半期	14,664	3.3	100	—	76	—	47	—
22年3月期第2四半期	14,312	△2.4	55	△44.6	39	△48.4	△105	—
23年3月期第2四半期	13,651	△4.6	△66	—	△86	—	△63	—
24年3月期第2四半期 (当第2四半期)	12,794	△6.3	△51	—	△67	—	△115	—
	3期連続減収		2期連続営業損失		2期連続経常損失		3期連続四半期純損失	

(注) 平成20年3月期第1四半期より四半期財務・業績の概況を開示しているため、平成20年3月期第2四半期については、売上高を除いて前年同四半期との比較数値は記載しておりません。また、平成21年3月期第1四半期より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用し、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しているため、平成21年3月期第2四半期については、前年同四半期との比較数値は記載しておりません。